

<プログラム>

シンポジウム名:セッション2 ゲノム合成時代の到来とバイオセキュリティ・セーフティ

日時:平成 29 年 10 月 19 日(木)16:10~18:40

会場:京都教育文化センター

企画:革新的研究開発推進プログラム ImPACT

「豊かで安全な社会と新しいバイオものづくりを実現する人工細胞リアクタ」

オーガナイザー(司会):田端和仁(内閣府 ImPACT、東京大学)、木賀大介(早稲田大学)

演題番号	演題と演者(ご所属)
S2-1	ゲノム合成時代の到来とバイオセキュリティ・セーフティ 野地博行 (内閣府 ImPACT、東京大学)
(1)ゲノム合成時代の到来	
S2-2	機能未解明ゲノム領域に対するスペクレイティブデザイン 相澤康則 (東京工業大学)
S2-3	DNA 集積・増幅反応からなる無細胞ゲノム合成技術 末次正幸 (立教大学、内閣府 ImPACT)
S2-4	遺伝暗号の改変とウルトラセーフセル 木賀大介 (早稲田大学)
(2)ゲノム合成技術の社会への影響	
S2-5	病原体の人工合成とバイオセキュリティ問題 四ノ宮成祥 (防衛医科大学校)
S2-6	バイオセキュリティ・セーフティに関する標準化・規格化に向けて 隅 藏 康 一 (政策研究大学院大学)
S2-7	バイオセーフティーに関する活動の紹介 横井崇秀 (日立製作所)
(3)ゲノム合成時代のバイオセキュリティ考察	
S2-8	パネルディスカッション ～事例研究『馬痘ウイルスの人工合成』～ パネリスト:演者 7 人、 司会:田端和仁